

音楽と音の本収録

音楽と音の本【2014No.7】(HP 収録)

分類：単行本

著者・编者：出原真澄

書名：マルチアンプシステム

副題：

発行所：日本放送出版協会

発行年度：昭和 53 年 11 月第 1 刷

備考：



概要：

ケンソニック社長の出原真澄氏が、メーカー技術者の立場とみずからの体験を元にマルチアンプシステムに関する理論と実践を詳細に記した著で、構成は次のようになっています。

第 1 章マルチウェイ・スピーカーシステム

第 2 章マルチアンプ方式のメリット、デメリット

第 3 章マルチアンプ方式のアウトライン

第 4 章チャンネルデバイダー

第 5 章マルチアンプ方式に適したスピーカーと注意事項

第 6 章マルチアンプ方式に適したパワーアンプ

第 7 章システムを決定付ける特性とその決め方

実技(1)：LC ネットワークとの併用

実技(2)：システムの紹介

付録：市販国内・外スピーカーユニット 45 機種の特徴

構成から分かるように、マルチアンプシステムの基礎の説明から、そのメリット・デメリット、チャンネルバイダー、マルチアンプシステムに適したスピーカーやアンプの解説、当時の入手可能なユニットを使用した事例紹介など、実践的な書として広く読まれたものと思われます。

当方もこの書を隔々まで熟読し、大いに参考にさせてもらいました。現在は、スペースの問題やオーディオに対して情熱の傾け方などいろいろな事情でマルチアンプシステムは流行らなくなりましたが、マルチユニットのスピーカーを使用するケース全般においては現時点においても参考になるところが多いかと思えます。

マルチアンプに取り組んでいた時、この書を片手に、チャンネルバイダーのカットオフ周波数の選択、オクターブあたりマイナス何dBで傾斜させるか、ユニット間で正相接続か逆相接続かの選択などを行い、Technicsのグラフィックイコライザー SH-8075と発振器兼音圧測定器のSH-8000でF特性を揃えるための実験を繰り返したことを思い出させてくれます。